

言語能力は、教材の内と外、教室の内と外、学校の内と外にあつて、生きてはたらくものでなくてはなりません。これからの国語教科書は、それらの内と外をつなぎ、言語能力を自ら育むことのできるすぐれた教材であり装置であることが期待されます。そのために、本教科書は、『中学生の国語』と『中学生の国語 学びを広げる』の二冊の造りになっています。

『中学生の国語』は、「本編」と「確かめよう」からなる一冊、『中学生の国語 学びを広げる』は、「資料編」としての一冊です。

『中学生の国語』の「本編」は、国語科の目標から導かれる言語能力の諸要素を指標とする単元構成をとっています。言語能力の諸要素とは、国語を表現する能力（表現力）、理解する能力（理解力）、伝え合う力、思考力、想像力、言語感覚、国語に対する認識（伝統的な言語文化を含む）と国語を尊重する態度などです。

これらの要素は、構造的、有機的につながり合っています。したがって、例えば単元構成の「表現力」は指標であつて、学習指導は他の要素と緊密に関連しながら展開するものとなります。表現力と理解力の関連、論理的思考力と感性的想像力の関連などは、学習指導

## 『中学生の国語』刊行にあたって

●編集委員会代表 中渕正堯

よつて学習者が自覚すべき不変の実践的課題です。新しい指向として、生徒をとりまく言語文化のうち歴史的なものが小学校から「伝統的な言語文化」として取り立てられました。この事項にもとづく小学校での言語活動を、本教科書では中学校入門期に引き継ぎ、その後の日本語による豊かな言語文化の学びに資するようにしました。

『中学生の国語』の「確かめよう」は、学習指導要領の内容（指導事項）を基礎・基本と捉え、自学しやすく構成したもので、「本編」の学習指導を補完します。同時に、学習を教材、教室、学校の外へと開き、メタ認知する役割をはたします。

『中学生の国語 学びを広げる』は、「資料編」として、国語科での学びを広げるとともに、他教科や日常生活に開かれた学びに資するものです。教材、教室、学校の内と外をつなぐ媒材、装置（読書の関係など）のスケールは大きくなります。ここにおいて、言語能力の生活化・社会化はいっそう進められます。

『中学生の国語』の「本編」と「確かめよう」「学びを広げる」とを相関させる言語活動によつて、一人でも多くの中学生の言語能力が伸長することを願っています。

# 『中学生の国語』3つの柱

次の3つのことを編集方針の中心におきました。

## P.8 言語能力をつける

- 本冊の「本編」では、授業での共同の学習・共通の学習内容を系統的に示し、基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着とその活用を目指します。
- 本冊の「確かめよう」では、身につけたい言語技能を各領域ごとに分け、学習指導要領の指導事項に即して、整理し、まとめています。

## P.20 学びの楽しさを広げる

- 別冊・資料編の「学びを広げる」では、国語科と他教科、あるいは生徒たちの日常の言語生活や社会生活との連携を図り、国語科の学習で培った言葉の力が生きて働くように工夫しました。

## P.24 伝統的な言語文化を大切にす

- 長く受け継がれてきた作品を積極的に取り入れ、これらに親しませる学習活動を通して、我が国の言語文化を継承し、新たな文化の創造への意欲が育つように配慮しました。

